

(様式第 10)

国循発総第 14100101 号
平成 26 年 10 月 1 日

厚生労働大臣

殿

独立行政法人
開設者名 国立循環器病研究センター
理事長 橋本信夫 (印)

国立循環器病研究センターの業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒 5 6 5 - 8 5 6 5 大阪府吹田市藤白台 5 - 7 - 1
氏 名	独立行政法人国立循環器病研究センター

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

独立行政法人国立循環器病研究センター

3 所在の場所

〒 5 6 5 - 8 5 6 5	電話(06) 6833-5012
大阪府吹田市藤白台 5 - 7 - 1	

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
<input checked="" type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 呼吸器内科 2 循環器内科 3 神経内科 4 5 6 7	
8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	④ ・ 無					
外科と組み合わせた診療科名						
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	7産婦人科
⑧産科	9婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	⑬麻酔科	16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	④ ・ 無					
歯科と組み合わせた診療科名						
1	2	3	4	5	6	7
歯科の診療体制						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18				
19	20	21								

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
床	床	床	床	6 1 2床	6 1 2床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年10月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	147人	147人	252人	看 護 補 助 者	8人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	人	10人	0.8人	理 学 療 法 士	13人	臨 床 検 査 技 師	60人
薬 剤 師	36人	7人	41.0人	作 業 療 法 士	3人	衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	1人	人	1人	視 能 訓 練 士	1人	そ の 他	0人
助 産 師	17人	人	17人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	619人	14人	628.7人	臨 床 工 学 技 師	20人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	4人
准 看 護 師	人	人	0人	栄 養 士	0人	そ の 他 の 技 術 員	8人
歯 科 衛 生 士	人	人	0人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	126人
管 理 栄 養 士	5人	3人	7.4人	診 療 放 射 線 技 師	42人	そ の 他 の 職 員	41人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年10月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	26人	眼 科 専 門 医	0人
外 科 専 門 医	11人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	0人
精 神 科 専 門 医	0人	放 射 線 科 専 門 医	2人
小 児 科 専 門 医	13人	脳 神 経 外 科 専 門 医	10人
皮 膚 科 専 門 医	1人	整 形 外 科 専 門 医	0人
泌 尿 器 科 専 門 医	0人	麻 酔 科 専 門 医	6人
産 婦 人 科 専 門 医	6人	救 急 科 専 門 医	1人
		合 計	76人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	489.0人	0人	489.0人
1日当たり平均外来患者数	414.2人	2.2人	416.5人
1日当たり平均調剤数			971.1剤
必要医師数			82人
必要歯科医師数			1人
必要薬剤師数			17人
必要(准)看護師数			259人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備		概 要	
集中治療室	m ² 1,327.07	鉄筋コンクリート	病床数	46床	心電計	④・無
			人工呼吸装置	④・無	心細動除去装置	④・無
			その他の救急蘇生装置	④・無	ペースメーカー	④・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 [移動式の場合] 台数		113.7m ² 台	病床数	4床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床積 共用する室名	51.9 m ²			
化学検査室	264 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動臨床検査システム、尿分析装置			
細菌検査室	85.2m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) PCR検査システム、パルスフィールド電気泳動システム			
病理検査室	114 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 電気泳動装置、自動染色装置			
病理解剖室	45.6m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 電子顕微鏡、超低温フリーザー			
研究室	7121.3m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) SPECT/CT、タンパク質ペプチド質量分析装置			
講義室	707.4m ²	鉄筋コンクリート	室数	5室	収容定員	475人
図書室	579 m ²	鉄筋コンクリート	室数	1室	蔵書数	48,000冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日	
紹介率	89.2%	逆紹介率	118.1%
算出根拠	A: 紹介患者の数	6,709人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	11,465人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,949人	
	D: 初診の患者の数	9,706人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
凍結保存同種組織を用いた外科治療	4人
骨髄細胞移植による血管新生療法	0人
末梢血単核球移植による血管再生治療	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
胎児尿路－羊水腔シャント術	0人
経胎盤的抗不整脈薬投与療法	3人
急性心筋梗塞に対するエポエチンベータ投与療法	6人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。
(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	経胎盤的抗不整脈薬投与療法	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 胎児頻脈性不整脈に対し抗不整脈薬を経胎盤的に投与する【胎児治療】を行なう。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	5人	・膿疱性乾癬	
・多発性硬化症	4人	・広範脊柱管狭窄症	
・重症筋無力症	2人	・原発性胆汁性肝硬変	1人
・全身性エリテマトーデス	17人	・重症急性膵炎	2人
・スモン		・特発性大腿骨頭壊死症	
・再生不良性貧血		・混合性結合組織病	4人
・サルコイドーシス	65人	・原発性免疫不全症候群	1人
・筋萎縮性側索硬化症	1人	・特発性間質性肺炎	1人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	10人	・網膜色素変性症	4人
・特発性血小板減少性紫斑病	4人	・プリオン病	
・結節性動脈周囲炎	2人	・肺動脈性肺高血圧症	121人
・潰瘍性大腸炎	3人	・神経線維腫症	3人
・大動脈炎症候群	91人	・亜急性硬化性全脳炎	
・ビュルガー病	34人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	
・天疱瘡	1人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	148人
・脊髄小脳変性症	8人	・ライソゾーム病	4人
・クローン病	1人	・副腎白質ジストロフィー	
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎		・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	19人
・悪性関節リウマチ	1人	・脊髄性筋萎縮症	
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	24人	・球脊髄性筋萎縮症	
・アミロイドーシス	7人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	
・後縦靭帯骨化症	5人	・肥大型心筋症	82人
・ハンチントン病		・拘束型心筋症	2人
・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症)	231人	・ミトコンドリア病	2人
・ウェゲナー肉芽腫症	2人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	455人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	1人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)		・黄色靭帯骨化症	
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)		・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	5人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 特定機能病院入院基本料 一般病棟 7 : 1	・ 小児入院医療管理料2(プレイルーム加算あり)
・ 救急医療管理加算	・
・ 超急性期脳卒中加算	・
・ 妊産婦緊急搬送入院加算	・
・ 診療録管理体制加算2	・
・ 急性期看護補助体制加算1 25対1	・
・ 看護職員夜間配置加算	・
・ 療養環境加算	・
・ 重症者等療養環境特別加算	・
・ 無菌治療室管理加算1	・
・ 栄養サポートチーム加算	・
・ 医療安全対策加算1	・
・ 感染防止対策加算1(感染防止対策地域連携加算)	・
・ 患者サポート体制充実加算	・
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ ハイリスク妊娠管理加算	・
・ ハイリスク分娩管理加算	・
・ 退院調整加算1	・
・ 新生児特定集中治療室退院調整加算1及び2、3	・
・ 救急搬送患者地域連携紹介加算	・
・ 救急搬送患者地域連携受入加算	・
・ 病棟薬剤業務実施加算	・
・ データ提出加算2	・
・ 特定集中治療室管理料3(小児加算あり)	・
・ ハイケアユニット入院医療管理料	・
・ 新生児特定集中治療室管理料1	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

その1

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器移行期加算)	・ポジトロン断層撮影
・糖尿病合併症管理料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・移植後患者指導管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・糖尿病透析予防指導管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・夜間休日救急搬送医学管理料	・冠動脈CT撮影加算
・外来リハビリテーション診療料	・心臓MRI撮影加算
・ニコチン依存症管理料	・無菌製剤処理料
・地域連携診療計画管理料	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅱ)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・薬剤管理指導料	・処置の休日加算1
・医療機器安全管理料1	・処置の時間外加算1
・持続血糖測定器加算	・処置の深夜加算1
・医療機器安全管理料2	・一酸化窒素吸入療法
・造血器腫瘍遺伝子検査	・手術の休日加算1
・HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・手術の時間外加算1
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・手術の深夜加算1
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・経皮的冠動脈形成術
・遺伝カウンセリング加算	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・血管内視鏡検査加算	・経皮的冠動脈ステント留置術
・植込型心電図検査	・経皮的大動脈弁置換術
・胎児心エコー法	・経皮的中隔心筋焼灼術
・時間内歩行試験	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・ヘッドアップティルト試験	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・皮下連続式グルコース測定	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術2
・神経学的検査	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術
・画像診断管理加算2	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・胎児胸腔・羊水腔シャント術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に1回程度
剖 検 の 状 況	剖検症例数 37例 / 剖部検率 20.70%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
早期・探索的臨床試験拠点整備事業	峰松 一夫	副院長	361,200,000	補委 医療施設運営費等補助金
革新的医薬品・医療機器・再生医療製品実用化促進事業	妙中 義之	研究開発基盤センター長	41,000,000	補委 医薬品等審査迅速化事業費補助金
健康研究成果の実用化加速のための研究・開発システム関連の隘路解消を支援するプログラム 迷走神経刺激による心不全治療の最適化	杉町 勝	循環動態制御部	31,999,462	補委 科学技術総合推進費補助金
膜電位分極化による細胞分化の制御機構の研究	岡澤 誠	血管生理学部	1,950,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
生体イメージングによる血管新生シグナルの時空間制御機構の解明	福原 茂朋	細胞生物学部	17,290,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
ライブイメージングによる血管-神経ワイヤリングの誘導・維持機構の解明	望月 直樹	細胞生物学部	22,750,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
食欲と脂肪蓄積の制御と破綻の分子基盤の解明	寒川 賢治	研究所長	7,540,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
新たな食欲・エネルギー代謝制御関連因子の探索法の開発と機能解析	寒川 賢治	研究所長	48,230,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
多階層データに基づく心臓電気現象の統合的機能シミュレーション	中沢 一雄	研究情報基盤管理室	10,140,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
高分子量プロテアーゼを介した細胞外シグナリングの構造生物学的研究	武田 壮一	心臓生理機能部	2,600,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
心筋の電氣的興奮活動における貫壁性ばらつき増大と破綻	相庭 武司	心臓血管内科(心不全・不整脈)	5,200,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
運動時の心臓副交感神経活動はどのように制御されているのか?	土持 裕胤	心臓生理機能部	4,810,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
多成長因子分泌卵膜由来間葉系幹細胞シートの開発	石兼 真	再生医療部	1,690,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
臨床研究を目指した超音波分子イメージング法の開発	大谷 健太郎	再生医療部	1,430,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
高血圧発症機序を交感神経活動の超慢性記録によって解明する	吉本 光佐	心臓生理機能部	780,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
睡眠呼吸障害のスクリーニング・治療における費用対効果の検討	竹上 未紗	予防医学疫学情報部	910,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
血管石灰化におけるマトリックスGla蛋白の役割についての研究	菅野 康夫	心臓血管内科	1,040,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
看護学研究に求められる倫理性に関する研究	松井 健志	予防医学疫学情報部	1,040,000	補委 文部科学省科学研究費補助金

小計
18

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
プルキンエ起源特発性不整脈の発生メカニズムに関するシミュレーション研究	原口 亮	研究情報 基盤管理 室	1,430,000	補 文部科学省科 委 学研究費補助 金
非アルコール性脂肪肝発症におけるPEX11alpha遺伝子の機能解析	翁 華春	病態ゲノ ム医学部	1,560,000	補 文部科学省科 委 学研究費補助 金
糖尿病発症および進行における不飽和脂肪酸補給の影響解析	馬 嘯	病態ゲノ ム医学部	1,300,000	補 文部科学省科 委 学研究費補助 金
細胞内タンパク質NDRG4のネットワーク動態の解明	井本 ひとみ (山本ひとみ)	分子病態 部	2,470,000	補 文部科学省科 委 学研究費補助 金
CHP3はGSK3βのリン酸化抑制を介して心筋細胞肥大を制御する	古林 創史	分子病態 部	2,080,000	補 文部科学省科 委 学研究費補助 金
活動依存的Ca ²⁺ シグナル系を介した小脳顆粒細胞発生・成熟機構の解明	岡澤 誠	血管生理 学部	1,560,000	補 文部科学省科 委 学研究費補助 金
肥大型心筋症の発症機序解明と治療法開発に関する基礎研究	杜 成坤	心臓生理 機能部	1,040,000	補 文部科学省科 委 学研究費補助 金
新規心臓特異的リン酸化酵素の活性調節に基づく心不全・心筋症治療薬の開発	瀬口 理	移植部	2,080,000	補 文部科学省科 委 学研究費補助 金
ニューロメジンUの慢性炎症を介した動脈硬化誘発機序の解明	堀 美香	病態代謝 部	1,430,000	補 文部科学省科 委 学研究費補助 金
卵膜由来間葉系幹細胞移植による腎虚血再灌流モデルにおける組織再生保護効果の検討	津田 秀年	再生医療 部	2,210,000	補 文部科学省科 委 学研究費補助 金
妊婦の摂取栄養が子どもの脳と精神に及ぼす影響	秋武 義治	再生医療 部	1,950,000	補 文部科学省科 委 学研究費補助 金
患者自身の皮下で簡便に作成できる自己の結合組織からなる小口径代用血管の開発	山南 将志	生体医工 学部	1,690,000	補 文部科学省科 委 学研究費補助 金
本邦における脳静脈血栓症の実態調査と診断・治療指針策定に関する研究	尾原 知行	脳血管内 科	1,300,000	補 文部科学省科 委 学研究費補助 金
心疾患合併妊娠の管理医療の開発：抗プロラクチン療法のヒト臨床-動物基礎複合的研究	神谷 千津子	脳血管内 科	1,170,000	補 文部科学省科 委 学研究費補助 金
研究倫理コンサルテーションの調査と試行に基づく事例集積モデル構築	會澤 久仁子	医学倫理 研究室	1,560,000	補 文部科学省科 委 学研究費補助 金
心筋血流量の高精度測定を実現するマルチスケール薬物動態モデルの開発	越野 一博	画像診断 医学部	1,820,000	補 文部科学省科 委 学研究費補助 金
異種情報の結合による先天性心疾患のための患者情報データベースに必要な技術開発研究	岩田 倫明	知的資産 部	1,950,000	補 文部科学省科 委 学研究費補助 金
心筋増殖過程におけるHippoシグナル機能の解明	福井 一	細胞生物 学部	2,080,000	補 文部科学省科 委 学研究費補助 金
コレステロール合成・吸収機構におけるヘパラン硫酸プロテオグリカンの作用機序の解明	望月 明和	分子薬理 部	2,080,000	補 文部科学省科 委 学研究費補助 金

小計
19

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
心臓で産生される新規生理活性ペプチドの循環調節機能と病態生理的意義	中尾 周	分子生理学部	1,430,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
新たな心肥大調節経路としての核内Ca ²⁺ 動態とCa ²⁺ センサーNCS-1の意義	稲垣 薫克	心臓生理機能部	1,560,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
低酸素による右心室肥大の意義と心不全への変遷機構の解明	松山 高明	臨床検査部	1,040,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
ヒト心房性不整脈の発生基質に関する病理組織学的探索	小林 貴	予防検診部	2,730,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
長寿遺伝子Sir2の加齢性心疾患における病態生理学的意義と治療応用	永井 利幸	心臓血管内科部門	2,470,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
心臓外サルコイドーシスに対する最新画像診断を用いた心臓病変早期検出の多施設研究	八木 寛陽	分子薬理部	2,210,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
シグナル指向的リン酸化プロテオーム解析による動脈硬化発症の分子ネットワークの同定	田嶋 優子	分子病態部	1,950,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
心機能検査指標を用いたバンコマイシン個別化適正投与方法開発に関する基盤研究	島本 裕子	薬剤部	780,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
体外循環中の高酸素管理下における炎症反応機序の解明 ー理想的な体外循環法の検討ー	藤井 豊	心臓生理機能部	2,080,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
生体4Dイメージングによる血管の管腔形成機構の解析	中嶋 洋行	細胞生物学部	1,950,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
体内植込み型医療機器臨床試験における倫理的問題の検討	中田 はる佳	知的資産部	1,170,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
自己組織化誘導型体内バイオプロセスに基づく栄養血管網を有する重厚心筋組織体の開発	岩井 良輔	生体医工学部	2,080,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
アンチセンス核酸医薬における脂質分子のコンジュゲート・ルールの確立	和田 俊輔	病態代謝部	2,600,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
生理活性ペプチドを用いた拡張型心筋症の新規治療法の開発	戦 冬雲	心臓生理機能部	2,210,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
脳虚血性病態理解のための非侵襲的小動物0-15ガスPET検査システムの構築	森口 哲朗	画像診断医学部	1,300,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
高感度分析による呼吸診断解析システムの開発と臨床応用	下内 章人	心臓生理機能部	6,110,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
小児重症心不全の治療成績向上のための補助循環システムの開発に関する総合的研究	巽 英介	人工臓器部	7,410,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
Gタンパク質共役受容体キナーゼ応答型循環器疾患治療・診断システム	姜 貞勲	生体医工学部	2,860,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
組織ペプチドーム解析を可能とする技術開発と新規生理活性ペプチドの探索・同定	南野 直人	分子薬理部	6,370,000	補委 文部科学省科学研究費補助金

小計
19

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
セルフリーデバイスの開発と体内バイオプロセスに基づくもう一つの再生医療技術の確立	中山 泰秀	生体医工学部	5,850,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
脂質シグナルによるイオン輸送体の活性制御機構とその構造基盤の解明	若林 繁夫	分子生理部	6,240,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
卵膜由来間葉系幹細胞系統分離法の開発、ならびに分類細胞の特異的移植療法の確立	池田 智明	再生医療部	4,550,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
人工心臓使用時のデバイス由来感染症防止に有用なスキンボタン・デバイス被覆材の開発	水野 敏秀	人工臓器部	4,290,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
血管再生療法による脳アミロイド血管症の能動的制御とアルツハイマー病治療法の開発	猪原 匡史	脳神経内科	3,900,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
循環管理を支援する自動薬物医療システムを臨床実用化し、自律神経医療と統合する研究	神谷 厚範	循環動態制御部	5,460,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
単独操作者によるポータブル使用が可能で耐久性に優れた超小型心肺補助システムの開発	妙中 義之	研究所	5,330,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
体内植込み型両心補助循環システムのために最適化された右心補助循環用ポンプの開発	築谷 朋典	人工臓器部	4,290,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
走査型触覚顕微鏡の高機能化設計：電荷・密度の同時計測の可能性の追求	高見沢 計一	生体医工学部	5,590,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
スフィンゴシン1-リン酸輸送体Spns2の哺乳類での機能	望月 直樹	細胞生物学部	5,200,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
医療機器の開発に関する知的財産評価指標の有用性評価と妥当性検証	赤川 英毅	知的資産部	4,550,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
慢性閉塞性肺疾患と冠動脈動脈硬化の共通リスク要因に関する国際比較研究	宮本 恵宏	予防健診部	4,160,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
DPP-4阻害薬によるアデノシンの心血管保護を介した新しい心不全治療の開発	北風 政史	臨床研究部	2,860,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
グレリンの自律神経作用を応用した循環器代謝疾患における橋渡し研究	岸本 一郎	糖尿病・代謝内科	6,370,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
抗血栓性因子プロテインSとADAMTS13の研究を通じた血栓症と血管障害症の解明	宮田 敏行	分子病態部	5,070,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
脱細胞小口径血管の早期内皮化処理と長期開存性の達成	中谷 武嗣	移植部	7,020,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
自律的適応性を有し生体の制御系へ能動的に働きかける新しい人工心臓制御の確立	大沼 健太郎	人工臓器部	5,070,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
先天性心疾患の診療支援をめざしたリアルタイム心拍動・マルチタッチ変形シミュレータ	中沢 一雄	研究推進支援部	7,930,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
血管系におけるスフィンゴシン-1-リン酸シグナルの生理的・病的役割の解明	福原 茂朋	細胞生物学部	5,460,000	補委 文部科学省科学研究費補助金

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
LOX-1結合分子群による病的血管機能誘導メカニズムの解明	沢村 達也	血管生理学部	6,500,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
都市部一般住民を対象とした心房細動の実態とリスクスコア作成に関する研究	小久保 喜弘	予防健診部	11,180,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
脳腸ペプチドによる中枢および自律神経系を介した新たな循環調節機構の解明	宮里 幹也	生化学部	8,450,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
心不全の能動的治療を可能とする超小型カテーテル式補助循環デバイスの研究開発	住倉 博仁	人工臓器部	8,190,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
DPC情報を用いた脳卒中大規模データベースによるベンチマーキングに関する研究	飯原 弘二	脳血管部門	6,630,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
X線結晶構造解析による血栓症発症機構の解明	秋山 正志	分子病態部	1,300,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
立体構造に基づくADAMプロテアーゼによるシェディング機構の解明	武田 壮一	心臓生理機能部	650,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
pH調整トランスポーターNHE1の新規カルシニューリン活性化因子としての意義の解明	久光 隆	分子生理部	1,040,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
血漿マイクロRNAのバイオマーカーとしての有用性の検討	岩井 直温	病態ゲノム医学部	1,560,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
大規模コホートに基づく循環器発症リスクスコア開発と新規バイオマーカーの有用性研究	西村 邦宏	予防医学疫学情報部	1,300,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
脳血管内皮の微細構造変化に着目したアルツハイマー病の病態解明	林 真一郎	高血圧・腎臓科部	1,300,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
末梢血多核白血球Rhoキナーゼ測定：冠攣縮性狭心症の新たなバイオマーカーの開発	安田 聡	心臓内科血管部門	1,040,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
伸展刺激感受性イオンチャネルの機能解析に基づく心筋症・心不全治療法の開発	岩田 裕子	分子生理部	1,560,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
分子標的による機能性HDL増加薬の開発 - 副作用の少ない新規抗動脈硬化剤の創製 -	岩本 紀之	糖尿病・代謝内科	1,040,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
慢性腎臓病が頸動脈硬化や脳卒中病態、血栓溶解治療に及ぼす影響（脳腎連関）の評価	豊田 一則	脳血管内科	1,430,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
脳梗塞急性期における至適血糖管理指針の策定：国循データベース研究	有廣 昇司	脳卒中集中治療科	1,430,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
AMPD1による新規骨格筋インスリン感受性調節機構に関する基礎的検討	平瀬 徹明	分子生物学部	1,430,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
β3インテグリン機能発現におけるILKの役割解明と関連分子の探索・同定	本田 繁則	分子病態部	1,170,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
左心補助人工心臓装着患者の右心不全に対する心房内シャント形成術の有効性評価	齋藤 友宏	人工臓器部	1,170,000	補委 文部科学省科学研究費補助金

小計
19

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
脳卒中バイオマーカー(miRNA, oxLDL, LOX-1, sRAGE)の検証	横田 千晶	脳血管内科	1,430,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
塩酸デクスメトミジンが自律神経性の循環調節に及ぼす中枢及び末梢作用の解明	川田 徹	循環動態制御部	910,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
心虚血・再灌流時における心筋間質セロトニン動態解明と心筋細胞傷害軽減の検討	秋山 剛	心臓生理機能部	1,300,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
低侵襲左心房圧モニターの開発と、コンピュータ制御循環管理システムへの応用	上村 和紀	循環動態制御部	1,560,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
高トリグリセリド血症の網羅的成因解析法の開発と応用：非遺伝子変異因子を中心として	高木 敦子	分子薬理部	2,080,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
トランスクリプトーム解析による食用植物油摂取が生活習慣病に与える影響の機序解明	内藤 由紀子	病態ゲノム医学部	1,690,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
新たな心筋保護因子としてのカルシウムセンサーNCX-1の役割とその分子機構の解明	西谷 友重	分子生理部	1,820,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
肥満関連指標と循環器疾患の危険因子発症リスクに関する研究	渡邊 至	予防健診部	1,170,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
大動脈瘤形成過程におけるHMGB1蛋白の役割	安斉 俊久	心臓血管内科	1,820,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
3次元経食道超音波検査による急性期虚血性脳卒中患者の評価	古賀 政利	脳卒中集中治療科	1,560,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
拡張期心不全の新たな非侵襲的診断法の開発：カラーMモード法の空間的・時間的分析	大原 貴裕	心臓血管内科部門	390,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
ブルガダ症候群における遺伝子、イオンチャネル異常と突然死リスク	相庭 武司	心臓血管内科部門	2,080,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
心筋梗塞後の初期リモデリングおよび不整脈に対する一時的迷走神経刺激治療法の開発	稲垣 正司	循環動態制御部	2,080,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
冠動脈不安定プラークを同定するMRIとPETを用いた新しい分子イメージングの開発	野口 輝夫	心臓血管内科	1,690,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
ユビキチン系制御によるES・iPS細胞から心筋細胞への効率的分化誘導法の開発	朝倉 正紀	臨床研究部・心臓血管内科	2,080,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
一過性脳虚血発作(TIA)後の脳卒中発症抑制に関する研究	上原 敏志	脳血管内科	1,430,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
ニューロメジンSと新規生理活性ペプチドが担う新しい生体調節機構の解明	森 健二	生化学部	1,690,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
乳児特発性僧帽弁腱索断裂の病態解明に向けた基礎的研究	白石 公	小児循環器部	2,080,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
心臓形態形成時の細胞増殖・分化転換機構に対するポリコム遺伝子群の機能解析	白井 学	分子生物学部	1,300,000	補委 文部科学省科学研究費補助金

小計
19

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
新生児虚血性脳障害の新規モデルを用いた、臍帯血及び骨髄単核球による再生治療	辻 雅弘	再生医療部	1,820,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
血流シミュレータによる治療困難な脳動脈瘤に対するバイパス併用術支援技術の確立	片岡 大治	集中治療部	1,560,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
IUGRモデル動物におけるエピジェネティクス機構による神経幹細胞の分化制御の解明	桂木 真司	周産期・婦人科部	1,820,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
蘇生科学エビデンスの国際発信とガイドライン作成の国際化と標準化に関する研究	野々木 宏	心臓血管内科部門	1,560,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
酸化LDL及びその受容体LOX-1の全身動態の非侵襲分子イメージング	中野 厚史	血管生理学部	1,820,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
シス型プロリン残基をもつ分泌タンパク質の小胞体における品質管理	小亀 浩市	分子病態部	1,820,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
グレリンの生理作用を応用した新しい循環器疾患治療法の開発	徳留 健	生化学部	1,950,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
皮膚灌流圧を指標とした重症虚血肢に対する血管内治療：前向き多施設観察研究	河原田 修身	心臓血管内科部門	2,340,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
虚血性心疾患治療を目指した心臓における細胞極性を制御するメカニズムの解明	中野 敦	臨床研究部	1,950,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
若年性大動脈瘤・解離の新規病因としてのフィラミン機能異常に関する検討	森崎 裕子	分子生物学部	1,820,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
三量体Gタンパク質G12/13を活性化する新規生理活性ペプチドの同定と機能解析	森 美和	生化学部	1,560,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
BMP-3bの新たなアディポサイトカインとしての機能およびその病態生理学的役割	日野 純	生化学部	2,730,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
生理活性ペプチド前駆体VGFの機能解明を目的とするペプチドミクス	佐々木 一樹	分子薬理部	1,950,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
新規生理活性ペプチドの同定による新たな摂食及びエネルギー代謝調節機構の解明	吉田 守克	生化学部	1,560,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
凝固線溶系遺伝子変異マウスを用いた本邦血栓症の分子病態学的特徴の確立	坂野 史明	分子病態部	2,080,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
画像診断法を用いた動脈硬化モデルWHHLMIウサギの病態特性の解明	圓見 純一郎	画像診断医学部	2,990,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
組織工学的に皮下で作製した心臓弁（バイオバルブ）の大動脈系自家移植による性能評価	武輪 能明	人工臓器部	1,560,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
体内埋め込み型治療機器による生体内電磁界曝露に関する定量的評価手法の確立	築谷 朋典	人工臓器部	1,430,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
病因物質を生体内の別の代謝経路から除去する新たな治療法・メタボリックスイッチング	馬原 淳	生体医工学部	1,560,000	補委 文部科学省科学研究費補助金

小計
19

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
生体内活性酸素種生成量の間接的推定法の開発と臨床応用	水上 智恵	心臓生理機能部	1,170,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
腸内嫌気性醗酵ガスによる新規食品機能概念の創生と代替医療への応用展開	下内 章人	心臓生理機能部	1,170,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
移植用自己拍動心筋細胞作成のための心筋分化用基材の開発	中谷 武嗣	移植部	2,470,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
新発想再生医療技術による完全自己組織大動脈弁の開発研究	高見沢 計一	生体医工学部	1,820,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
植込式連続流型人工心臓の異常停止時および離脱試験時に使用可能な流路調節装置の開発	巽 英介	人工臓器部	780,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
人工材料に対する免疫・炎症反応の網羅的遺伝子発現解析によるin vivo評価	柿木 佐知朗	生体医工学部	2,210,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
脳梗塞治療法の開発を見据えた長寿遺伝子産物Sirt1による脳虚血抵抗性機序の解明	猪原 匡史	脳神経内科部	2,470,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
内因性酸化LDL阻害因子の同定とその動脈硬化性疾患制御機構の解明	垣野 明美	血管生理学部	1,300,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
心筋細胞における筋原線維の同期的収縮を支えるT管の分子機構の解明	阪本 英二	血管生理学部	1,950,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
脂肪酸修飾ペプチドファミリーと受容体による新しい生体調節機構の解明	宮里 幹也	生化学部	2,210,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
2種の抗血栓因子を用いた血管内皮細胞の可視化と発現解析を可能とするマウスの作製	宮田 敏行	分子病態部	2,470,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
補助人工心臓治療を高度化する能動的計測法による新しいモニタリングシステムの構築	大沼 健太郎	人工臓器部	910,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
日本発世界初の完全自己組織からなる僧帽弁用ステントバルブの開発	水野 壮司	生体医工学部	1,820,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
オートファジー細胞死の制御による新規心血管治療法の開発	山原 研一	再生医療部	1,820,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
生体内組織形成術により作製したバイオペルブの全人工心臓への応用	住倉 博仁	人工臓器部	1,170,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
側枝血管の確実な血流維持を可能とする脳動脈治療用カバーステント開発における孔設計	中山 泰秀	生体医工学部	1,820,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
糖鎖修飾変動に基づく心不全関連タンパク質の網羅的同定と新規心不全マーカーへの応用	永井 千晶	分子薬理部	1,560,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
SIRT1の脳虚血抵抗性機構の検討	服部 頼都	再生医療部	1,560,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
LED体内照射による組織形成促進化技術の確立：ステント付バイオペルブへの応用	船山 麻理菜	臨床研究部	1,560,000	補委 文部科学省科学研究費補助金

小計
19

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
迅速・高感度PET検査による脳動静脈奇形の機能的循環代謝評価	丸山 大輔	心臓血管内科	1,560,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
光干渉断層法を用いた下肢動脈ステント内組織性状の評価	坂本 信吾	心臓血管内科	1,560,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
凝固因子の新しい受容体による凝固・血栓形成機構の解明	藤田 佳子	血管生理学部	1,170,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
日本版フラミンガムリスクスコアの開発とそれに基づく食行動変容介入プログラム構築	横山 葉子	予防医学疫学情報部	800,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
糖尿病時の呼吸・循環調節障害に対する運動トレーニング効果	曾野部 崇	心臓生理機能部	800,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
壁細胞特異的Notch3による虚血性血管新生メカニズムの解析	山本 由美	再生医療部	1,100,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
皮膚活性酸素種の新規計測法の開発と臨床応用	神野 直哉	心臓生理機能部	1,100,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
被災地における心不全患者の在宅療法に関する研究	橋本 信夫	総長	150,000,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
脳卒中急性期医療の地域格差の可視化と縮小に関する研究	飯原 弘二	脳神経外科	5,500,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
心臓移植対象患者管理における在宅療法に関する研究	中谷 武嗣	移植部	3,120,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
乳児特発性僧帽弁腱索断裂の病因解明と診断治療法の確立に向けた総合的研究	白石 公	小児循環器部	11,700,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
脳卒中高リスク群の診断及び治療による循環器疾患制圧に関する研究	峰松 一夫	副院長	15,000,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
成人先天性心疾患の診療体系の確立に関する研究	白石 公	小児循環器部	7,800,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
大規模災害における循環器病診療の体制と手法の確立に関する多施設共同研究	内藤 博昭	病院	12,300,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
骨髄単核球を用いた細胞治療の一般普及を目指した簡便且つ細胞調製施設が不要な幹細胞分離デバイスの開発	山原 研一	再生医療部	37,050,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
肺静脈閉塞症 (PVOD) の診断基準確立と治療方針作成のための統合研究	植田 初江	病理部	6,500,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
ニュートリゲノミクス解析に基づく機能性食用油の安全性に関する研究	内藤 由紀子	病態ゲノム医学部	4,420,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
神経再生性人工細胞外マトリクスを用いた神経疾患治療法の検討	柿木 佐知朗	生体医工学部	4,870,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
大量出血症例に対する最適輸血療法の確立に関する研究	宮田 茂樹	輸血管理室	6,000,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金

小計
19

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ヒトの血管性認知症の病態を的確に再現し治療法開発に直結する新規ラットおよび霊長類モデルの開発研究	猪原 匡史	脳神経内科	8,320,000	補 厚生労働省科学研究費補助金
急性期脳卒中への内科複合治療の確立に関する研究	豊田 一則	脳血管内科	10,000,000	補 厚生労働省科学研究費補助金
慢性期ハイリスク者、脳卒中および心疾患患者に適切な早期受診を促すための地域啓発研究	宮本 恵宏	予防検診部	13,775,000	補 厚生労働省科学研究費補助金
アポC3をターゲットとした高中性脂肪血症、動脈硬化症に対する革新的核酸医薬の開発	斯波 真理子	病態代謝部	78,000,000	補 厚生労働省科学研究費補助金
日本人に高頻度に見られる血栓性遺伝子変異をもつ疾患モデルマウスの開発	宮田 敏行	分子病態部	8,424,000	補 厚生労働省科学研究費補助金
ウイルス動脈輪閉塞症の診断・治療に関する研究	橋本 信夫	総長	14,720,000	補 厚生労働省科学研究費補助金
特発性心筋症に関する調査研究	北風 政史	臨床研究部	81,900,000	補 厚生労働省科学研究費補助金
リガンド固定化マイクロデバイスによる循環がん細胞診断デバイスの開発	馬原 淳	生体医工学部	4,100,000	補 厚生労働省科学研究費補助金
卵膜由来間葉系幹細胞を用いた難治性疾患に対する新規移植再生療法の開発	池田 智明	周産期・婦人科部	10,400,000	補 厚生労働省科学研究費補助金
Bridge to Decisionを目的とした超小型補助循環システム並びに頭蓋内・心血管治療用の新規多孔化薄膜カバードステントに関する医師主導型治験及び実用化研究	峰松 一夫	病院	120,120,000	補 厚生労働省科学研究費補助金
血管内皮機能改善に基づく糖尿病性腎症治療薬の開発	望月 直樹	細胞生物学部	8,500,000	補 厚生労働省科学研究費補助金
急性心不全に対する選択的アルドステロン拮抗薬の有効性を評価する臨床試験	北風 政史	臨床研究部	82,940,000	補 厚生労働省科学研究費補助金
簡便に調製可能な分子標的気泡を用いた超音波分子イメージングの開発－臨床用超音波造影剤の適応拡大の可能性の検討	大谷 健太郎	再生医療部	2,990,000	補 厚生労働省科学研究費補助金
治験の実施に関する研究【小児用補助人工心臓】	中谷 武嗣	臓器移植部	1,000,000	補 厚生労働省科学研究費補助金
治験の実施に関する研究【エプレレノン】	安田 聡	心臓血管内科	1,000,000	補 厚生労働省科学研究費補助金
治験の実施に関する研究【肺動脈ステント】	白石 公	小児循環器部	500,000	補 厚生労働省科学研究費補助金

小計
16

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

計
186

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	大原 貴裕	心臓血管内科部門 心不全科	ImpactofChronicKidneyDiseaseonCarotidAtherosclerosisAccordingtoBloodPressureCategoryTheSuitaStudy	STROKE
2	小久保 喜弘	生活習慣病部門 予防健診部	The Impact of Green Tea and Coffee Consumption on the Reduced Risk of Stroke Incidence in Japanese Population The Japan Public Health Center-Based Study Cohort	STROKE
3	大原 貴裕	心臓血管内科部門 心不全科	Clinicalpredictorsofin-hospitaldeathandearlysurgeryforinfectiveendocarditis:ResultsofCARDiacDiseaseREGistration(CADRE),anation-widesurveyinJapan	International Journal of Cardiology
4	宮崎 文	小児循環器・周産期部門 小児循環器科	Theincidenceandcharacteristicsofsupraventriculartachycardiainleftatrialisomerism:Ahighincidenceofatrialfibrillationinyoungpatients	INTERNATIONAL JOURNAL OF CARDIOLOGY
5	松山 高明	中央診療部門 臨床病理科	Intrinsicleftatrialhistoanatomyasthebasisforreentrantexcitationcausingatrialfibrillation/flutterinrats	HEART RHYTHM
6	大郷 剛	心臓血管内科部門 肺循環科	InhibitionofOveractiveTransformingGrowthFactor-betaSignalingbyProstacyclinAnalogsinPulmonaryArterialHypertension	AMERICAN JOURNAL OF RESPIRATORY CELL AND MOLECULAR
7	桂木 真司	小児循環器・周産期部門 周産期科	Risk factors for maternal and fetal outcome in pregnancy complicated by Ebstein anomaly	AMERICAN JOURNAL OF OBSTETRICS AND GYNECOLOGY
8	大内 秀雄	小児循環器・周産期部門 小児循環器科	CardiopulmonaryVariablesDuringExercisePredictPregnancyOutcomeinWomenWithCongenitalHeartDisease	CIRCULATION JOURNAL
9	高濱 博幸	心臓血管内科部門 心不全科	Exercise-InducedSTEElevationinPatientsWithNon-IschemicDilatedCardiomyopathyandNarrowQRSComplexes-NovelPredictorofLong-TermPrognosisFromExerciseTesting	CIRCULATION JOURNAL
10	三好 剛一	小児循環器・周産期部門 婦人科	SafetyandEfficacyofImplantableCardioverter-DefibrillatorDuringPregnancyandAfterDelivery	CIRCULATION JOURNAL
11	帆足 孝也	小児循環器・周産期部門 小児心臓外科	Indication of Takeuchi Technique for Patients With Anomalous Origin of the Left Coronary Artery From the Pulmonary Artery	CIRCULATION JOURNAL
12	帆足 孝也	小児循環器・周産期部門 小児心臓外科	Anatomic Repair for Corrected Transposition With Left Ventricular Outflow Tract Obstruction	ANNALS OF THORACIC SURGERY

13	帆足 孝也	小兒循環器・周産期部門 小兒心臟外科	Late Left Ventricular Function After Successful Ross-Konno Operation	ANNALS OF THORACIC SURGERY
14	福田 哲也	中央診療部門 放射線部	Evaluation of Automated 2D-3D Image Overlay System Utilizing Subtraction of Bone Marrow Image for EVAR: Feasibility Study	EUROPEAN JOURNAL OF VASCULAR AND ENDOVASCULAR SURGERY
15	大田 裕子	生活習慣病部門 高血圧・腎臓科	Effect of bezafibrate on office, home and ambulatory blood pressure in hypertensive patients with dyslipidemia	JOURNAL OF HUMAN HYPERTENSION
16	豊田 一則	脳血管部門長	Comparison of the European and Japanese Guidelines for the Acute Management of Intracerebral Hemorrhage	CEREBROVASCULAR DISEASES
17	古賀 政利	脳血管部門 脳卒中集中治療科	Factors Associated with Early Recanalization Failure following Intravenous rt-PA Therapy for Ischemic Stroke	CEREBROVASCULAR DISEASES
18	賀来 泰之	脳血管部門 脳神経外科	The Leptomeningeal Ivy Sign on Fluid-Attenuated Inversion Recovery Images in Moyamoya Disease: Positron Emission Tomography Study	CEREBROVASCULAR DISEASES
19	大田 祐子	生活習慣病部門 高血圧・腎臓科	High salt intake promotes a decline in renal function in hypertensive patients: a 10-year observational study	HYPERTENSION RESEARCH
20	森田 奈緒美	中央診療部門 放射線部	Frequency of emerging positive diffusion-weighted imaging in early repeat examinations at least 24h after transient ischemic attacks	Neuroradiology
21	河原田 修身	心臓血管内科部門 血管科	Subintimal Angioplasty of Lengthy Femorotibial Total Occlusion in Buerger's Disease	JOURNAL OF ENDOVASCULAR THERAPY
22	大内 秀雄	小兒循環器・周産期部門 小兒循環器科	Haemodynamic characteristics before and after the onset of protein losing enteropathy in patients after the Fontan operation	EUROPEAN JOURNAL OF CARDIO-THORACIC SURGERY
23	帆足 孝也	小兒循環器・周産期部門 小兒心臟外科	Long-term results of treatments for functional single ventricle associated with extracardiac type total anomalous pulmonary venous connection	EUROPEAN JOURNAL OF CARDIO-THORACIC SURGERY
24	高濱 博幸	心臓血管内科部門 心不全科	Liposomal Amiodarone Augments Anti-arrhythmic Effects and Reduces Hemodynamic Adverse Effects in an Ischemia/Reperfusion Rat Model	CARDIOVASCULAR DRUGS AND THERAPY
25	佐藤 徹	脳血管部門 脳神経外科	Superselective Shunt Occlusion for the Treatment of Cavernous Sinus Dural Arteriovenous Fistulae	NEUROSURGERY
26	北野 正尚	小兒循環器・周産期部門 小兒循環器科	Aggressive Coil Embolization for Connected Aortic Pulmonary Collateral Arteries With Large Shunts Developed After Diaphragmatic Plication Performed After Cavopulmonary Connection to Facilitate Fontan Circulation	CATHETERIZATION AND CARDIOVASCULAR INTERVENTIONS

27	河原田 修身	心臟血管内科部門 血管科	Duplex criteria for in-stent restenosis in the superficial femoral artery	CATHETERIZATION AND CARDIOVASCULAR INTERVENTIONS
28	岡村 英夫	心臟血管内科部門 不整脈科	Initial experience using Excimer laser for the extraction of chronically implanted pacemaker and implantable cardioverter defibrillator leads in Japanese patients	JOURNAL OF CARDIOLOGY
29	高濱 博幸	心臟血管内科部門 心不全科	The extent of heart rate reduction during hospitalization using beta-blockers, not the achieved heart rate itself at discharge, predicts the clinical outcome in patients with acute heart failure syndromes	JOURNAL OF CARDIOLOGY
30	足立 太一	中央診療部門 心臟血管系集中治療科	The Japanese experience with sirolimus-eluting stent implantation in the infarct-related artery: Five years of observation from the J-PMS study	JOURNAL OF CARDIOLOGY
31	桂木 真司	小兒循環器・周産期部門 周産期科	Acute aortic dissection (Stanford type B) during pregnancy	JOURNAL OF PERINATOLOGY
32	佐藤 祥一郎	脳血管部門 脳血管内科	Intra- and extracranial atherosclerotic disease in acute spontaneous intracerebral hemorrhage	JOURNAL OF THE NEUROLOGICAL SCIENCES
33	阿部 忠朗	小兒循環器部 小兒循環器科	Clinical characteristics and long-term outcome of acute myocarditis in children	HEART AND VESSELS
34	永井 利幸	心臟血管内科部門 心臟血管内科	Eicosapentaenoic acids suppresses adverse effects of C-reactive protein overexpression on pressure overload-induced cardiac remodeling	HEART AND VESSELS
35	永井 利幸	心臟血管内科部門 心臟血管内科	Left circumflex coronary artery is protected against reflow phenomenon following percutaneous coronary intervention for coronary artery disease	HEART AND VESSELS
36	峰松 一夫	副院長	Guidelines for the Intravenous Application of Recombinant Tissue-type Plasminogen Activator (Alteplase), the Second Edition, October 2012: A Guideline From the Japan Stroke Society	J Stroke Cerebrovasc Dis
37	大西 裕幸	無菌治療科	Haptoglobin Phenotype Predicts Cerebral Vasospasm and Clinical Deterioration after Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage	JOURNAL OF STROKE & CEREBROVASCULAR DISEASES
38	飯原 弘二	脳血管部門長	Hybrid Operating Room for the Treatment of Complex Neurovascular and Brachiocephalic Lesions	JOURNAL OF STROKE & CEREBROVASCULAR DISEASES
39	岩嶋 義雄	生活習慣病部門 高血圧・腎臓科	Impact of Pump Replacement on Outcome in Advanced Heart Failure Patients With Left Ventricular Assist System	ARTIFICIAL ORGANS
40	三好 剛一	小兒循環器・周産期部門 婦人科	Retrospective Review of Thoracoamniotic Shunting Using a Double-Basket Catheter for Fetal Chylothorax	FETAL DIAGNOSIS AND THERAPY

41	吉谷 健司	中央診療部門 手術部	Clinical Validity of Cerebral Oxygen Saturation Measured by Time-resolved Spectroscopy During Carotid Endarterectomy	JOURNAL OF NEUROSURGICAL ANESTHESIOLOGY
42	桂木 真司	小児循環器・周産期部門 周産期科	Immediate newborn outcome and mode of delivery: Use of standardized fetal heart rate pattern management	JOURNAL OF MATERNAL-FETAL & NEONATAL MEDICINE
43	佐藤 徹	脳血管部門 脳神経外科	A heart transplant candidate with severe pulmonary hypertension and extremely high pulmonary vascular resistance	JOURNAL OF ARTIFICIAL ORGANS
44	藤田 知之	心臓血管外科部門 心臓外科部長	Aortic valve closure for rapidly deteriorated aortic insufficiency after continuous flow left ventricular assist device implantation	JOURNAL OF ARTIFICIAL ORGANS
45	瀬口 理	移植部 移植対策室	Bone-destroying candida infection following left ventricular assist device explant	JOURNAL OF ARTIFICIAL ORGANS
46	帆足 孝也	小児循環器・周産期部門 小児心臓外科	Early clinical outcomes of new pediatric extracorporeal life support system (Endumo(A(R))2000) in neonates and infants	JOURNAL OF ARTIFICIAL ORGANS
47	大内 秀雄	小児循環器・周産期部門 小児循環器科	Impact of Central Venous Pressure on Cardiorenal Interactions in Adult Patients with Congenital Heart Disease after Biventricular Repair	CONGENITAL HEART DISEASE
48	小谷 順一	心臓血管内科部門 心臓血管系集中治療科	Consideration of Dual Anti-platelet Therapy Duration after Drug-eluting Stent Implantation in a Japanese Population : A Five-year Follow-up after Sirolimus-Eluting Stent Implantation	INTERNAL MEDICINE
49	豊田 一則	脳血管部門長	Antithrombotic Therapy for Pregnant Women	NEUROLOGIA MEDICO-CHIRURGICA
50	福田 健治	脳血管部門 脳神経外科	Pregnancy and Delivery Management in Patients With Cerebral Arteriovenous Malformation: A Single-Center Experience	NEUROLOGIA MEDICO-CHIRURGICA
51	片岡 大治	中央診療部門 集中治療科	Subarachnoid Hemorrhage From Intracranial Aneurysms During Pregnancy and the Puerperium	NEUROLOGIA MEDICO-CHIRURGICA
52	飯原 弘二	脳血管部門長	Tasuki Clipping Combined With High Flow Bypass for Ruptured, Previously Coiled, Partially Thrombosed Giant Aneurysm at the Carotid Bifurcation-Case Report	NEUROLOGIA MEDICO-CHIRURGICA
53	吉谷 健司	中央診療部門 手術部	Anesthetic Management of Pregnant Women With Stroke	NEUROLOGIA MEDICO-CHIRURGICA
54	山本 晴子	先進医療・治験推進部長	The Path to the Execution of Explorative Clinical Researches in National Cerebral and Cardiovascular Center (NCVC)	YAKUGAKU ZASSHI-JOURNAL OF THE PHARMACEUTICAL SOCIETY OF JAPAN

55	小久保 喜弘	生活習慣病部門 予防健診部	Carotid Atherosclerosis in Kidney Disease	BRAIN, STROKE AND KIDNEY
56	大塚 伸子	脳血管部門 脳血管内科	Compensatory Contribution of the Contralateral Pyramidal Tract after Stroke	CLINICAL RECOVERY FROM CNS DAMAGE
57	鎌倉 令	心臓血管内科 専門修練医	Significance of Non-Type 1 Anterior Early Repolarization in Patients With Inferolateral Early Repolarization Syndrome	JOURNAL OF THE AMERICAN COLLEGE OF CARDIOLOGY
58	小林 潤平	脳血管内科・脳神経内科 レジデント	Clinical Significance of Fluid- Attenuated Inversion Recovery Vascular Hyperin- tensities in Transient Ischemic Attack	STROKE
59	坂本 悠記	脳血管内科 レジデント	Systolic Blood Pressure After Intravenous Antihypertensive Treatment and Clinical Outcomes in Hyperacute Intracerebral Hemorrhage The Stroke Acute Management With Urgent Risk-Factor Assessment and Improvement-Intracerebral Hemorrhage Study	STROKE
60	吉田 朱美	心臓リハビリテーション 専門修練医	Direct comparison of the diagnostic capability of cardiac magnetic resonance and endomyocardial biopsy in patients with heart failure	EUROPEAN JOURNAL OF HEART FAILURE
61	井口 公平	心臓血管内科 レジデント	Beneficial effects of cilostazol in a patient with recurrent ventricular fibrillation associated with early repolarization syndrome	HEART RHYTHM
62	土井 淳史	心臓血管内科 専門修練医	Efficacy of Additional Radiofrequency Applications for Spontaneous Dissociated Pulmonary Vein Activity After Pulmonary Vein Isolation in Patients with Paroxysmal Atrial Fibrillation	JOURNAL OF CARDIOVASCULAR ELECTROPHYSIOLOGY
63	牧元 久樹	心臓血管内科 専門修練医	Double Tachycardia After Slow Pathway Ablation for Atrioventricular Nodal Tachycardia: What Is the Mechanism?	JOURNAL OF CARDIOVASCULAR ELECTROPHYSIOLOGY
64	前田 亘一郎	脳血管内科 レジデント	Effects of Sex Difference on Clinical Features of Acute Ischemic Stroke in Japan	JOURNAL OF STROKE & CEREBROVASCULAR DISEASES
65	西川 祐介	脳血管外科 専門修練医	Efficacy and Safety of Single versus Dual Antiplatelet Therapy for Coiling of Unruptured Aneurysms	JOURNAL OF STROKE & CEREBROVASCULAR DISEASES
66	宮城 哲哉	脳血管内科・脳神経内科 レジデント	Examination Timing and Lesion Patterns in Diffusion-weighted Magnetic Resonance Imaging of Patients with Classically Defined Transient Ischemic Attack	JOURNAL OF STROKE & CEREBROVASCULAR DISEASES
67	宮城 哲哉	脳血管内科・脳神経内科 レジデント	Intravenous Alteplase at 0.6 mg/kg for Acute Stroke Patients with Basilar Artery Occlusion: The Stroke Acute Management with Urgent Risk Factor Assessment and Improvement (SAMURAI) Recombinant Tissue Plasminogen Activator Registry	JOURNAL OF STROKE & CEREBROVASCULAR DISEASES

68	小林 潤平	脳血管内科・脳神経内科 レジデント	Pituitary Ischemic Apoplexy in a Young Woman Using Oral Contraceptives: A Case Report	JOURNAL OF STROKE & CEREBROVASCULAR DISEASES
69	松本 学	病理 専門修練医	Decreased Serum Ghrelin Levels in Patients with Acute Myocardial Infarction	TOHOKU JOURNAL OF EXPERIMENTAL MEDICINE
70	藤吉 俊毅	心臓外科 レジデント	The Application of All-Autologous Three-Sinus Repair for Supravalvular Pulmonary Stenosis	PEDIATRIC CARDIOLOGY
71	林 友鴻	心臓血管内科 専門修練医	A Successful Case of Percutaneous Transluminal Septal Myocardial Ablation for Mitral Regurgitation that Emerged Following Mitral Valve Repair Surgery	INTERNAL MEDICINE
72	小川 達也	心臓血管外科 専門修練医	Pseudoaneurysm at the cannulation site of the ascending aorta arising 8 days postoperatively: report of a case	SURGERY TODAY

小計 5

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

合計 72

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
~				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 「倫理委員会の運営」、「委員会の責務」、「倫理審査予備調査」、「審査の方法」、「研究許可申請手続き」、「迅速審査」、「研究者の責務」、「実施状況報告の審査」等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告(25年度実績)において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 「利益相反マネジメントの対象」、「職員等の責務」、「利益相反マネジメント委員会所掌事項」、「調査結果に基づく処置」、「異議申立て」、「利益相反相談室の設置」等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告(平成 25 年度実績)において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容 「臨床研究倫理の基礎」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「バイオバンクとその倫理的な問題について」等	

- (注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告(平成 25 年度実績)において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

わが国の循環器病対策の一環として、循環器病診療に従事する医師に対し、高度の専門的知識及び技術を修得させ、技術・知識の向上を図ることを目的とする。

2 研修の実績

研修医の人数	92人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
安斉 俊久	循環器内科	心臓血管内科部長	25年	
豊田 一則	脳血管・神経内科	脳血管部門長	27年	
—	精神科			研修プログラム無し
白石 公	小児循環器科	小児循環器部長	32年	
小林 順二郎	心臓血管外科	副院長	34年	
市川 肇	小児心臓外科	小児心臓外科部長	30年	
—	整形外科			研修プログラム無し
高橋 淳	脳神経外科	脳神経外科部長	23年	
—	皮膚科			研修プログラム無し
—	泌尿器科			研修プログラム無し
吉松 淳	産婦人科	周産期・婦人科部長	27年	
—	眼科			研修プログラム無し
—	耳鼻咽喉科			研修プログラム無し
東 将浩	放射線科	CT室医長	22年	
—	歯科			研修プログラム無し
大西 佳彦	麻酔科	手術部長	31年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容：循環器病診療に従事する看護師、診療放射線技師、臨床検査技師及び臨床工学技士に対し、高度の専門的知識及び技術を修得させ、専門職員の技術・知識の向上を図ることを目的とする。・研修の期間・実施回数：10日間・1回／年・研修の参加人数：21人

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告(平成 25 年度実績)においては、平成二十六年四月以降の実績(計画)を報告しても差し支えないこと(その場合 0 には、その旨を明らかにすること)。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 内藤 博昭
管理担当者氏名	総務課長：幾島 真琴、医事室長：森口 浩、薬剤部長：栗原 健 情報管理室長：中山 泰

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書			平成24年1月より診療記録は電子保存（電子カルテ）としている。従前のカルテ、X線フィルム等については1患者1ファイル方式とし、集中管理している。 診療録等の院外持ち出しは原則禁止としている。病院長の許可を得た場合のみ可能としている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究医療課	
	高度の医療の研修の実績	研究医療課	
	閲覧実績	情報管理室	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事室	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事室	
第規一則号第に一掲条のる十体一制第の一確項保各の号状及び第九条の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事室	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染対策室
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室
	各号及び第九條	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	医療安全室
	第九條	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全室
	第二十三條	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全室
	第一項	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全室
	第一号に掲げる体制の確保の状況	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療安全室
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全室
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全室	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全室	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	病院長 内藤 博昭	
閲覧担当者氏名	総務課長：幾島 真琴、医事室長：森口 浩、 情報管理室長：中山 泰	
閲覧の求めに応じる場所	診療情報等開示閲覧室	
閲覧の手続の概要 円滑な運用を確保するため、情報公開窓口を設置し運用 ①開示申請者から所定の申請書提出 ②申請書を受けて開示・不開示の決定 ③申請者に対し開示・不開示の決定通知書の送付 ④当該文書等の閲覧		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 第1章【1.趣旨 2.医療安全の基本的な考え方 3.医療安全に係る安全管理のための委員会・組織に対する基本的事項 4.医療安全に係る安全管理のための職員に対する研修に関する基本方針 5.センターにおける事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 6.医療事故発生時の対応に関する基本方針 7.医療従事者と患者との情報共有に関する基本方針 8.患者からの相談への対応に関する基本方針 9.その他の医療安全の確保のための基本方針】、第2章から構成。第2章は、用語の定義、第1章2～9の実務的内容を記す。	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
・ 活動の主な内容： ア)医療安全管理指針の制定、改訂に関すること。イ)医療安全管理に関する職員への教育・研修に関すること。ウ)医療安全確保を目的とした改善のための検討に関すること。エ)医療事故等重大な問題が発生した場合の対応に関すること。オ)医療事故の分析及び再発防止策の検討並びに立案された防止対策及び改善策の実施状況の調査及び評価、見直しに関すること。カ)医療安全管理に関する研究、広報、院外活動に関すること。キ)医療安全上の訴訟に関すること。ク)診療に関する患者・家族からの意見、要望に関すること。ケ)その他医療安全管理に関すること等	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容： 全職員対象医療安全講習会 第1回：医療安全―誰のために、何を求めて 第2回：医療チームの安全性を支えるノンテクニカルスキル／スピークアップとリーダーシップ	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療安全コア会議のメンバーがコメディカルを含む構成になっており、コア会議で検討したうえ、医療安全室員会議、推進担当者会議からの意見を集約し改善策を検討し、最終医療安全委員会で決定し職員へ周知している。	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (2 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
・ 所属職員： 専任 (5) 名 兼任 (1 7) 名 ・ 活動の主な内容： 医療安全室員WGを置き活動を行っている。テーマに沿った活動を行っている (教育研修、患者誤認、心肺蘇生事例検討、安全な御手術等) 。 職員安全管理に関する意識向上を及び指導、現場の情報収集と実態調査、医療安全に関する情報発信等を各会議を通じて実践している	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	○有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>①院内感染対策に関する基本的考え方 ②院内感染管理体制 ③職員研修 ④感染症の発生状況の報告 ⑤院内感染発生時の対応 ⑥患者への情報提供と説明 ⑦その他の院内感染対策の推進</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>①院内感染症の調査、予防対策の立案 ②予防対策実施の監視と助言、指導、勧告 ③職員の教育指導 ④院内感染対策の指針及びマニュアルの作成・見直し⑤その他委員長が必要と認める事項</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 7 6 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>・ 結核菌への曝露リスク、・ O U T B R E A K、・ 冬期ウイルス感染症について ・ 消毒薬について、・ 耐性菌について、・ 接触予防策、</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (○有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>感染対策室に報告がされ、感染対策室は感染対策委員会を開催し、原因究明及び感染拡大防止対策の立案を行う。加えて、必要に応じて現地調査を行い、状況を逐一院長に報告する。</p>	

(様式第6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">新採用職員医療安全講義 医薬品安全管理について医療安全講習会 麻薬・毒薬管理について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">手順書の作成 (○有・無)業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none">①医薬品の採用 ②医薬品の購入 ③調剤室における医薬品の管理 ④病棟・各部門への医薬品の供給 ⑤外来患者への医薬品使用 ⑥在宅患者への医薬品使用 ⑦病棟における医薬品の管理 ⑧入院患者への医薬品使用 ⑨医薬品情報の収集・管理・提供 ⑩手術・麻酔部門 ⑪集中治療室 (ICU・NCU) ⑫輸血・血液管理部門 ⑬生命維持管理装置領域 ⑭臨床検査部門、画像診断部門 ⑮他施設との連携 ⑯事故発生時の対応 ⑰教育・研修	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">医薬品に係る情報の収集の整備 (○有・無)その他の改善のための方策の主な内容：<p>院内webにてDIニュースとして発信 重大情報・緊急情報については文書による回報を合わせて行い、各職員が伝達確認票に押印のうえ、専任医療安全管理者が回収し、伝達状況を確認している。</p>	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 1 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○第 1 回人工呼吸器勉強会 (Servo I HamiltonG5 BabyLog Avea Bipap V60 RTX DPAP)○第 2 回人工呼吸器勉強会 (Servo I HamiltonG5 BabyLog Avea Bipap V60 RTX DPAP パラパック)○第 3 回人工呼吸器勉強会 (Servo I Bipap RTX DPAP BabyLog Avea V60)○第 4 回人工呼吸器勉強会 (Servo I Bipap)○第 5 回人工呼吸器勉強会 (RTX)○植込型補助人工心臓説明会 (Heart Mate II EVAHEART)○医療ガス (NO) 研修会○新採用者医療安全講義○LifeVest勉強会	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (○有・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>保守点検計画表に基づき、臨床工学技士若しくは委託業者により定期点検を実施している。また各使用部署において外観、作動状況等の日常点検を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none">○日常点検 (始業時点検・使用中点検・終業時点検)○定期点検 (電気的安全点検・外観点検・機能点検・性能点検・定期交換部品等の交換等)○故障時点検 (定期点検に準じた点検を行い故障箇所を特定する)○機器の消毒清掃 (使用後機器の外装部などの清掃・消毒を行う)	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (○有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医薬品・医療機器安全情報をはじめ、メーカーからの提供情報、インターネットによる情報検索により、医療機器の安全使用関連情報を収集し、医療安全委員会等で資料を配付し、各職場で伝達している。</p> <p>伝達状況については伝達確認票を回収し、確認している。</p>	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有 無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構による病院機能評価 平成 22 年 6 月 4 日認定	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有 無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 ホームページで循環器に関する主な疾患について、その原因や治療法などについて分かりやすく紹介している。 定期的に市民公開講座を開催し、循環器疾患かかる情報提供・啓蒙活動を実施している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有 無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 各診療科にコンサルティングドクターを設けており、速やかな連携を図っている。	